

試験研究（事前）評価整理表

意見整理表1（事前評価）

試験研究機関名 林業研究センター

所管グループ 研究開発グループ

整理番号	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	外部評価アドバイザーのコメント
	施策目標	研究課題分類				始期	終期		
1	21世紀の豊かな森林、活力のある林業・木材産業づくり	山腹等緑化施工地管理技術の確立	植生抑制のための炭材を利用した吹付け方法の検討	林道法面下部の植生抑制手法を開発し、道路の安全通行の確保と維持管理費の縮減を図る。なお、吹きつけ資材としては、現場で植生抑制効果が認められている事例のある木炭を用いて環境への配慮を行う。	吹付け材への炭材混入割合、混入資材、吹付け厚等による植生抑制効果を検討し、持続的な抑制方法を開発する。	平成17	平成21	A	・炭素混入吹き付けの効果や有効な技術開発のために、大学などとの連携が不可欠である。
2	21世紀の豊かな森林、活力のある林業・木材産業づくり	食用きのこ生産技術の開発	中山間地域振興を目的としたきのこ栽培技術の開発	地域の社会的、環境的条件に適合した、複数きのこを組み合わせた栽培形態等を確立し、定住の促進等による中山間地域の振興を図る。	ブナ代替原木による原木ナメコ栽培や、季節に応じたきのこの組み合わせによる栽培を検討し、低い投資額と労働力で高齢者等でも容易に取り組める栽培技術を確立する。	平成17	平成21	B	・「多品種少量生産」の技術開発のためには、科学的及び工学的な取り組みが求められ多面的な連携が必要となる。 ・スローフードなど食への関心が高まっています。健康を意識した食生活のため、きのこの栽培技術の確立は望ましいと思います。
3	21世紀の豊かな森林、活力のある林業・木材産業づくり	県産針葉樹材の高付加価値化技術の開発	在来軸組工法における構造部材の接合技術の確立	在来軸組工法について、高い耐力性能が保証できる接合技術を確立して木造住宅の信頼性向上を図り、住宅資材への県産材利用を拡大する。	在来軸組工法における構造材の継ぎ手や仕口について、許容耐力等を明確化するとともに、従来よりも耐力性能に優れ、施工が簡易な接合方法を開発する。	平成17	平成21	A	・在来軸組工法の信頼性確立のためには材料特性、想定される負荷様式、継手形状及び使用環境の影響評価が必要であるから、それぞれの専門家の参画が必要である。
4	21世紀の豊かな森林、活力のある林業・木材産業づくり	県産針葉樹材の高付加価値化技術の開発	県産木材を用いた大断面構造柱の開発	建築基準法の改正により、大規模建築物への木材の利用範囲が広がったことから、美観や環境適合性に優れた大断面構造柱を開発することにより、県産木材の需要拡大を図る。	県産木材を主要部材とした、性能指標が明確な大断面構造柱を開発するため、構成条件や接着条件の検討、ならびに試作製品の強度性能評価等を行う。	平成17	平成21	B	・上記テーマと同様に、材料特性などの影響評価が必要であるから、それぞれの専門家の参画が必要である。